

泉寿亭とその周辺

平成25年10月5日(土)10:00～11:30

別子銅山記念図書館 専門員 坪井利一郎

1. はじめに

別子銅山を読む講座の受講者から「泉寿亭と隣接の池など周辺のこと」を話してほしいとのリクエストがあった。「講座」の会場である別子銅山記念図書館に泉寿亭が惣開から移転して建っていたことはご存知のとおりである。しかし、考えてみると最初の泉寿亭はいつから始まり、どこに建っていたのかは定かではない。

また、泉寿亭の東側には昔から隣接して池があり、今も水が湧いている。

2. 泉寿亭が始まった頃の状況

明治21年に惣開製錬所が本格操業を始める。

（惣開が生産拠点になる。新しい街の形成で旅館、料理店も必要となる。接待館、病院、学校、銀行、郵便局、回漕店、菓子屋が並ぶ。旅館、料理店も必要となる。）

明治22年に分店を本町から惣開に移す。

（惣開分店が越智伊平を惣開に招いての開設なので、分店の移転後である。）

明治23年に別子開坑二百年祭を開催する。

（開坑二百年祭の来賓等の宿泊所として分店が越智伊平を惣開に招いての開設か。）

明治25年に尾道－今治－新居浜定期航路が開設される。

（船宿としての開設か。）

明治26年に住友鉱山鉄道・下部線開通する。

（惣開が海路、陸路の結節地となる。）

3. 泉寿亭はいつ、だれが始めたか

明治32年(1899)8月に新居浜地方を襲った台風水害の記録の中に泉寿亭が出てくる。

泉寿亭の初出である。この台風で別子病院が旧別子から金子に移転すると記録があるのは、惣開駅近くへの移転である。病院は明治34年(1901)に堀割の外に移転して本格的に建築される。病院が星越山(王子山)北側に移転後は、その建物は住友建設本社屋に使われ、現在は住化不動産が使用している。台風被害に出てくるので、病院が旧別子から惣開へ移転してくる明治32年より前から泉寿亭が惣開に開業していた。

（明治32年の住友病院の所在地は金子村614番戸であるが、惣開町には614番地の地番はない。番戸とは、住宅番号でないのか。その後移転した金子乙1594番-1は住化不動産の所在地に該当する。）

明治41年(1908)に、住友鉱山採鉱課主任・新井琴次郎が書いた「別子鉱山案内記」に「泉寿亭、久米川の旅館に泊まり、付近の見学に費し給え。」と出てくる。明治25年に尾道—今治—新居浜定期航路が開設されたので、船宿として開設されたのか。(なお明治38年、桜井村長・曾我部右吉は、大阪本店からの帰りに別子鉱業所を訪問する時に久米川に泊まっている。泉寿亭は住友関係者用で、久米川は一般人用か。)

大正13年(1924)に、海南新聞が発行した愛媛県人名鑑第四編に「住友鉱業所指定旅館並びに和洋料理・泉寿亭 新居郡新居浜惣開・真鍋鼎」と掲載広告がある。旅館兼割烹料理屋であった。

益友会第9巻2号(昭和37年2月)に、村上八郎が「料理の名人越智伊平さん」で、「西条で旅館を営んでいたが、惣開の住友分店から招かれて転居し泉寿亭と号して旅館兼料理屋を営んでいた。片手間営業として餡菓子を作っていたが、真鍋に泉寿亭を譲り、泉寿軒と号し菓子専業として発足した。」と書いている。時期は大正初期と書いている。新井の記述からすると明治末期には営業しているので、大正初期の内容は泉寿亭を譲渡して泉寿軒開業の時期となる。ちなみに、生子山の奥の宮にある越智伊平と刻まれている一对の灯籠は、伊平が寄進したものである。

惣開の住友分店から招かれての開業なので、明治22年以降の開業となる。そして経営形態は、住友から建物が貸与されての経営である。明治23年に別子開坑二百年祭を開催するので、その時の来賓等の宿泊所としての開設なのか。明治23年に、別子開坑二百年祭の迎賓館として住友のお抱え大工・八木甚兵衛が広瀬邸新座敷を竣工したのに引き続き、惣開に接待館を設計・施工しているので来賓等の宿泊所ではないが、関係者の宿泊、料理の賄等で使われたことは考えられる。

新居浜の登録有形文化財・別子銅山近代化遺産(平成21年11月、広瀬歴史記念館)に、末岡照啓が「**新居浜出張者の宿泊施設としていた。**」と設置目的が明確に記載している。しかし、開設時期は特定していない。

新居浜史談258号2月号(平成9年)「越智伊平の後日談」によると、**越智伊平は、西条市紺屋町(旧大屋デパートの斜め前)で「おさかなや」という旅館をしていた。家は藩政時代からの料理関係の御用使用人であったそうである。最初の旅館は住友鉱山鉄道の惣開駅のところに病院といっしょにあった。その後(明治34年)、病院と泉寿亭は掘割の外に移転した。その頃長男の倉太郎が経営していて、四阪島にも支店を出していた。**伊平は旧惣開小学校への入口に当たる原地に泉寿軒を開いて菓子屋を始めた。太平洋戦争がはじまり強制疎開で店が取り壊されて閉じた。

住友鉱山鉄道略史の資料として、明治38年頃の惣開構内路線図には、接待館も泉寿亭も地図に名称の記載はない。しかし、別子銅山写真帖の解説の地図には接待館の位置と名称が記載されている。**明治32年～40年製作の住友鉱山6000分の1地形図と建物配置図は同じで、接待館の位置は判明する。**明治34年移転後の病院も記載されているので、惣開地区の地図製作は明治34年以降である。住友鉱山鉄道略史の資料では、昭和6年頃

の惣開・磯浦地区略図で、接待館と泉寿亭の位置が地図に出ている。接待館は、掘割の外にある住友公園の所に出て来ている。吉村久美子の「鉾山絵葉書からみた産業史に関する考察」では、泉寿亭が街並みの配置図で所在地が正確に出ている。泉寿亭は現在の惣開町2-1-3 森実運輸(株)の所にあたる。接待館は、現在の新田町3-1-4 惣開ビル別館の所にあたる。

4. 図書館のあるところの泉寿亭

昭和15年(1940)開催の別子開坑二百五十年祭事業の一環として住友の迎賓館として、**昭和12年(1937)12月に惣開から中新田の別子鉾山鉄道昭和橋駅前に移転し増築され、昭和13年(1938)3月に竣工する。**設計は長谷部竹腰事務所(現在の日建設計)、施工は藤木工務店。経営は委託されていた。

接待館にあたる住友倶楽部は、昭和12年に王子町に洋館仕立てで新築される。

「泉寿亭」の名前は、江戸時代の住友家屋号「泉屋」を「寿ぐ」という意味で付けられたのは承知のとおりである。旅館、接待館として新居浜を訪れる多くの人に利用された。破風下の壁に空気穴が開いていて、翁(オキナ)と媼(オウナ)の対になっていた。ちなみに、管理棟が媼で、特別室棟が翁が施されていた。4000坪を越える広大な敷地の中に、一部二階建ての五棟の建物が廊下で接続されており、建築規模は1300坪近くを誇っていた。管理棟1棟、客室棟(2階建て)3棟、別館(2階建て)1棟、特別室棟1棟から構成され、それぞれ渡り廊下でつながっていた。客室は三部に区分されていて、客室棟には24室、特別室棟には3室の計27室が用意され、別館は宴会場となっていた。床の間の配置や造りが一つひとつ違っているなど細部にまで気が配られていた。

別館の2階は昭和16年1月に惣開にあった接待館(明治23年。八木甚兵衛が設計・施工)の一部が移築されたものであった。27の客室は、一部(特別室)3室、二部(客室)8室、三部(客室)16室のランク分けがされていた。その間取りは、一部が10畳に6畳の控えの間、二部が8畳に4畳の控えの間、一部が6畳に3畳の控えの間となっていた。床の間の配置や造りが一つひとつ違っているなど細部にまで気が配られていた。特別室専用の玄関の利用は、皇族や大臣、住友家の当主や幹部職員に限られていた。昭和13年には東久邇宮稔彦親王、昭和27年には常陸宮殿下が宿泊された。破風下の扁額「別館 泉寿亭」は、今治の書家・織田子青の筆である。なお、二部の玄関には船板に「泉寿亭」と子青によって書かれていた。

昭和25年までは柳原竹市が委託経営していて、同年12月から林業、鉾山、化学、重機、共電、建設の6社での直営共同経営を始める。当番制で1年交代。

昭和47年に新居浜市観光協会の指定旅館に登録、観光旅館として一般宿泊者も受け入れるようになる。

5. 泉寿亭の移築

平成2年(1990)の別子開坑三百年祭を迎えるにあたり、リーガ・ロイヤルホテルが新居浜に設置されることになり、泉寿亭は役目を終えて同年8月31日で閉館した。閉館したが

1 1月の別子開坑三百年祭に来られる各社の役員の宿泊が最後の業務となった。中新田に移築してから53年間の歴史を閉じた。平成3年(1991)に特別室の玄関と3室あった特別室のうち1室を端出場に移築して保存展示している。元の別子銅山記念図書館の芝生の中には、玄関の靴脱ぎ石・柱の柄石が残っている。

端出場に移築された旧泉寿亭特別室は、平成21年8月7日に国の登録有形文化財に登録された。

6. 北泉井戸北池と南池

北泉の地名の初出は、昭和53年3月刊行の「別子鉱山鉄道略史」の中の別紙35「大正初期の磯浦、新田、王子地区略図」の中である。北泉の地名は、北江口の泉という意味合いなのか。王子川には、王子淵のほか三角池、くす淵がある。

(合田正良著「伊予路の伝説」昭和46年刊行に、石鎚彦の神が笹ヶ峰から石を3個投げ、一個は山田に、2個目は前田に落ち大淵ができ、3個目は若水に落ち葛籠淵になった。北泉に関する伝説がないところを見ると、周知度は低かった。)

道路計画が加筆された昭和7年6月調整図の「新居浜全図」には、王子川水系はあいまい表記で、大淵、北泉の地名はない。しかし、平成25年8月18日～25日、郷土美術館で開催の「別子銅山そして本誌に係る先人展」で展示の「昭和9年頃の新居浜港附近平面図」に、はっきり記載された王子川水系に、大淵、北泉の地名を発見する。北泉も北池、南池も明確に描かれている。

昭和43年の住宅地図には、泉寿亭東側に2つの池がある。名称が記されていないが、北泉井戸の北池と南池である。池からの水路は、新居浜工業高等学校と泉寿亭・キゲタ自動車の間、住友海上火災と別子陸運(現在は住友生命)の間が開渠となり、県道をくぐって土場の遊水地に続いていた。現在は県道の少し西までは暗渠になっている。

平成16年度に別子銅山記念図書館の駐車場拡張工事で北泉井戸北池を埋め立て、70台分を増設した。

「住友化学が冷却水の水として、北池と南池の間に揚水ポンプを設置して利用を始めた。水源としては南池が使用され、現在に至っている。子供のころ、北池で泳いだ。池の東が北江口、池の南が中新田で、両地名から北新町と新居浜市が新たに命名した。」と地域の古老は語っている。住友化学が所有している約30ヶ所の水源井戸の一つである。

北泉井戸について不明3点を、8月1日、住友化学でJr.マイスターの講義をする時に尋ねた。回答を次に記す。

質問① 北泉井戸取水後の使用用途について

⇒愛媛工場の雑冷水源として取水しています。

この雑冷水の主な用途は、工場各機器の冷却水(熱交換器等)や冷水塔の補給水、洗淨水等として使用されます。

水源としてはこの雑冷水の他に良水もあり、良水は主にボイラー用や製品用・飲料水用として使用されます。

質問② 北泉井戸の利用開始年

⇒掘削・利用開始年は、昭和27年(1952)です。

戦後、高度成長期に向かう最中に、愛媛工場の工業用水(自家用)増強の目的で掘削されました。なお、当時は公共の工業用水は未だありませんでした。

質問③ 北泉井戸の現在の利用状況

⇒現在も愛媛工場の雑冷水源の要として利用しております。

特に、一方の雑冷水源である吉岡泉水が少なくなる今の時期(夏季渇水時)には稼働率も高く、貴重な井戸となっております。

7. 読図

別子鉱業所が森林計画準備等のために明治32年から明治40年まで測量して作成した6000分の1の地図に昭和10年頃の地図、昭和37年の地形分類図、平成21年の地形図の道路、字界図を重ねた「惣開・中新田の地図」を読図する。

中須賀、西原に浜堤が発達し、金子川河口の先端部は干拓がなされているのが堤防の設置から読み取れる。西原の先が、安兵衛五郎左衛門新田、その先で金子川河口部に面しているのが、喜七郎新田である。西原の南の水路の間が、与右衛門善兵衛新田。その南の金子川との間が新新田。新新田の東に元新開がある。国領川の砂の運搬量が多く、中須賀・西原の砂州が発達して金子川の河口部は西に押されている。

磯浦海岸の低い浜堤には松林が形成され、その先は御代島に続く州となる。浜堤背面の水田が地上げされ惣開小学校、惣開グラウンドが整備されている。内陸には更に2つの浜堤が伸びている。別子鉱山鉄道の線路は、浜堤の上に敷かれている。また、新田の集落が浜堤の微高地の上に形成されている。字名からすると、正徳6年(1716)に名古屋呂で製塩が始められた名古屋呂塩田の跡地は、旧惣開小学校から先のあたりに当たる「塩田跡」である。一宮神社旧記に「磯浦名古屋呂新田塩浜」と記録されているから、字名でいうと塩浜跡、寄合新田、新左衛門新田の海岸部全体が磯浦であった。今の磯浦と呼んでいこの範囲はかなり西になる。地名の「名古屋」は海に突き出た砂堆を意味するので、位置関係は合致している。

別子鉱山鉄道が敷設されている浜堤とその海側が、西惣開、東惣開であり、広瀬幸平が惣開の記碑で書いている清水総右衛門が干拓した新田面積は4町7段3畝で、東惣開の面積は約4.5町であるので、清水総右衛門が干拓したのは「東惣開」である。「西惣開」は清水総右衛門が干拓した嘉永年間より90年前の宝暦14年の記録に出てくる「惣開」である。

東惣開、西惣開の東に西新田、新田がある。金子川河口は、東西から浜堤の砂州が囲む干潟の内湾になっていた。

蛇行する金子川は左岸に2つの自然堤防の微高地を形成する。微高地上に河内と中新田・北江口の集落が形成される。

金子川の自然堤防の背後に沼沢を形成させながら後背湿地が広がり、浜堤の前面で排水河川として王子川が後背湿地の水を集めて瀬戸内海に流出する。沼沢の大きなものとして大淵(王子淵)、善右衛門井戸、北泉井戸などがある。後背湿地は、鷺尾勘解治によって星越山(王子山・前山)を切り取って星越から昭和橋まで土を高く盛った道路を堤として、尾鉦で埋め立てられた。かさ上げされているので低地であることが分からなくなっているが、王子川が地表より深いのでかつての低地面が確認できる。

金子川に架かる橋は、新居橋と金子橋の2橋のみである。新居橋は口屋跡のある本町と惣開を結ぶ。金子橋は登り道の一宮神社一の鳥居西に道標があるように、金子と惣開を結ぶ。「目論見書」でもこの道筋の記述があり、金子橋から惣開へは金子川左岸の土手を通って惣開に至っている。

金子橋から泉寿亭への斜め道路は、病院前からの道路と西原からの道路の交点に引かれていたが、惣開からの道路との取り付きの関係で交差点が南に移動したため、斜め道路も金子橋を起点にして南に振っている。そのため北泉井戸南池は、斜め道路の南側から北側になった。

「鷺尾勘解翁」では、「第一に星越から昭和橋までの道路を新設し、さらに港から金子村を貫通して、新居浜駅に至る道路の新設を計画し、既に泉寿亭前から着工したが、金子村の強力な反対に逢って涙をのんでこれを中止した。」とあるが、昭和10年頃の地図では、星越から昭和橋までの道路と昭和通りが完成した後に斜め道路が計画道路として線引きされている。昭和通りの着工前に斜め道路が泉寿亭前から着工されていない。

泉寿亭の中新田移転で用地を整備するにあたり、北泉井戸北池と南池をつなぐ水路が東に付け替えられた。北泉井戸南池には湿原地がある。北泉井戸北池は湿原地であった。住友化学の水源として整備された。

リーガロイヤルホテル南側の善右衛門井戸も湿原が工業用水井戸として整備された。

8. おわりに

泉寿亭は、西條の越智伊平が住友分店の招へいで惣開駅近くに開設した。開設は分店が惣開へ移転した明治22年以降で、台風被害の明治32年以前であるが開設年が特定できない。明治34年には現在の森実運輸(株)に移転している。さらに昭和12年に中新田に移転している。そして平成2年8月末で閉館している。

北泉井戸北池と南池は、金子川の後背湿地の沼沢の一つとしてあった。昭和12年の泉寿亭の中新田移転で用地整備の中で、水路と池は泉寿亭の東側に整備され、住友化化学の工業用水の水源として整備される。

断片的な図書で中新田以前の泉寿亭が若干判明した。池についても読図での説明範囲で、金子川が形成した自然堤防から後背湿地に移行するところの沼沢であることがわかる。

周辺を読図していて、名古屋呂塩田があった所や清水惣右衛門が干拓した所、斜め道路も計画線から南に振っていることなどが分かった。

参考文献

- | | | |
|-----------------------|------------------|--------------|
| 愛媛県人物名鑑第四編 | 海南新聞社 | 大正 13 年 |
| 住友倶楽部・泉寿亭のリーフレット | | |
| 料理の名人越智伊平さん | 村上八郎 益友 9-2 | 昭和 37 年 2 月 |
| 伊予路の伝説 | 合田正良 | 昭和 46 年 3 月 |
| 別子鉱山鉄道略史 | 別子銅山記念館 | 昭和 53 年 3 月 |
| 泉寿亭の破風について | 曾我部宗邦 | 平成 2 年 1 月 |
| 泉寿亭雑感 | 曾我部宗邦 | 平成 2 年 |
| 泉寿亭の床の間 | 小野寺茂(住友林業人事部) | 平成 2 年 |
| 生子山奥宮遷座と越智伊平さん | 芥川三平 新居浜史談 256 号 | 平成 8 年 12 月 |
| 越智伊平の後日談 | 高橋達雄 新居浜史談 258 号 | 平成 9 年 2 月 |
| 泉寿亭について | 曾我部宗邦 | 平成 12 年 12 月 |
| 別子産業遺産とその思い出(2)泉寿亭 | 井上省二 益友 56-11 | 平成 21 年 11 月 |
| 新居浜の登録有形文化財・別子銅山近代化遺産 | 広瀬歴史記念館 | 平成 21 年 11 月 |
| 別子鉱山写真帖 | 光森印刷(株) | 平成 22 年 1 月 |
| 鉱山絵葉書からみた産業史に関する考察 | 吉村久美子 | 平成 23 年 3 月 |

惣開・中新田の地図

惣開小学校惣開駅別子鉱業所分析所住友銀行惣開郵便局泉寿亭住友病院所長宅

惣開小学校宮西小学校新居浜工業学校住友病院

大淵(王子淵)山田社宅リーガロイヤルホテル王子川王子山(前山)

金子川善右衛門井戸北泉井戸昭和通り敷島通り接待館長田池

惣開小学校惣開駅別子鉱業所分析所住友銀行惣開郵便局泉寿亭住友病院所長宅

惣開小学校宮西小学校新居浜工業学校住友病院

大淵(王子淵)山田社宅リーガロイヤルホテル王子川王子山(前山)

金子川善右衛門井戸北泉井戸昭和通り敷島通り

浜堤・自然堤防

池・川

計画道路

昭和10年頃の道路

現在の幹線道路

別子鉱山鉄道

字界

字名：新左衛門新田
字名：寄合新田
字名：塩浜跡新田
字名：西惣開
字名：東惣開
字名：西新田
字名：新田
字名：大曲り
字名：喜七郎新田
字名：安兵衛五郎左衛門新田
字名：西原
字名：与右衛門善兵衛新田
字名：新新田
字名：中須賀
字名：窪田地
字名：横ノ本
字名：元新開
字名：西口
字名：江口
字名：西組
字名：新左衛門新田
字名：新左衛門新田
字名：新左衛門新田
字名：新左衛門新田

新左衛門新田 寄合新田 塩浜跡新田 西惣開 東惣開 西新田 新田 大曲り 喜七郎新田
安兵衛五郎左衛門新田 西原 与右衛門善兵衛新田 新新田 中須賀
窪田地 横ノ本 元新開 西口 江口 西組
大江 西町 浦部 殿之前 寺ノ南 六反地 泉池 揚須賀 樽丸 下中竿 上中竿 宮ノ西
向新田 浜屋敷 西前町 東須賀 誉開 元須賀
龍宮本 東口新田
鶴目 葛籠淵 仏柳 下初穂 上初穂 法目 下徳常
一本松 浜道 長地 中新開 下北浦 北ノ浦 宮ノ辺 松ノ端 葭ノ上

菊本 大島 下ノ川 治佐開

寺走り 高丸ノ西 高丸

川田 元新開 東大江 御代島 土が谷 前山一ノ谷